

OWNER'S MANUAL

Direct/Refilecting® Loudspeaker System

901WB

この度は901WBをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

901WB/901WB-EQ 取扱説明書



※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。
※写真中のスタンドは別売りです。

目　次

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。
以下の内容に反した使用により損害が発生した場合、当社は責任を負いかねます。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	**警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
	**注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

表示例

 △記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

 ⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。（左図の場合は分解禁止を意味します）

 ●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

△ **警告**	 電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	 水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	 使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		**通風孔のある機器のみ** ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。 テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
		●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。
		●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ

●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。

●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。

●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。

●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。

●＜本製品＞を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。

●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

⚠ 注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ

●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ とマイナス － の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。

●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。

●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。

●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。
他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

スピーカーの防磁について

※スピーカーの防磁について
このスピーカーは、防磁処理が施されておりませんので、テレビやモニターなどに近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターからスピーカーを十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、スピーカーをさらにテレビから離してご使用ください。

スピーカーのお手入れについて

901WBは非常にデリケートな仕上げを施しております。あまり強く擦りますと、キャビンネットに傷がつく場合がありますので、十分ご注意ください。

キャビネットの汚れを落とす場合

●汚れやホコリは、柔らかい布でから拭きしてください。から拭きをする場合は、傷を付けないようにご注意ください。

●汚れがひどいときには、中性洗剤を薄めた水かアルコールをやわらかい布に浸し、拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

●シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

アクティブイコライザーのお手入れについて

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときには、中性洗剤を水で薄めた液に柔らかい布を浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

特　長

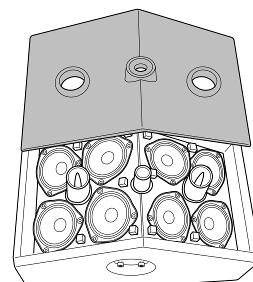
901WBスピーカーシステム

空間特性

●正面に配置した、1個のスピーカーユニットから直接音成分、V字型に130°の角度で背後に8個のスピーカーユニットを配置して壁面に向いた面から、間接音を得ています。この方法によってリスニングルーム全体へ放射された音響パワーが周波数に対して均等になるよう直接音と間接音の正しい割合が保持され、理想的な音場空間を実現します。

スピーカーユニット

●バスケットは特殊高分子材を使用。マグネットの磁気がフレームに帯磁するのを防ぎ、ボイスコイルに対する磁気回路の動作は純粋に働きますので、磁気の乱れが生じません。



●ボーズ特許（U.S.PATENT ）のアルミリボンワイヤーのエッジワイズ巻ボイスコイルを採用。高耐入力を計るとともに、高域の再生限界を伸ばしています。

●高透磁率特殊セラミックマグネットを使用し、マグネットの消磁現象を防いでいます。

●9個の同一フルレンジユニットを直列に接続し応答の平均化を実現し、また、各フルレンジユニットを音響的に密結合させることにより共振の分散化を図ることで音の不要な色付きを排除しました。

アコースティック・マトリックスエンクロージャー

●本体内部は、9室に分れていて各室の容積は同一、またその9室の壁面には平行面が存在しないように設計された特殊な五角形エンクロージャーを採用し、余分な共振を排除しています。

音響的に改善された堅牢なキャビネット

●キャビネットには最適な内部損失と硬度を持つ針葉樹100%のMDF（Medium Density Fiber-Board：中密度繊維板）を使用しています。また表面に硬度のあるUV塗装仕上げを施し、無駄なキャビネットの鳴きを抑え、サイドパネルは高品位な“バーズアイメイプル調”で仕上げています。

コーンのエクスカーションをコントロールするリアクティブ・エアコラム

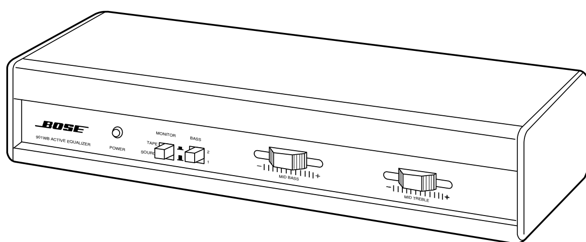
●スピーカーユニット背面の空気圧を最適に調整し、空気の反発力で、コーン紙のエクスカーション（ユニットのストロークが限界を越えて動作する状態）を抑えます。このしくみによってコーン紙のエクスカーションを必要最小限に抑えながら正確で豊かな重低音の再生を可能にしています。

●このリアクティブエアコラムはバスレフタイプのエンクロージャーのダクトとは根本的に異なったものです。通常のダクトはふさいでしまうと当然周波数特性の乱れや過渡特性は変化してしまいますが、リアクティブエアコラムは、かりにふさいでしまってもバスレフタイプのエンクロージャーのダクトのときのような変化は生じません。リアクティブエアコラムは、コーン紙の動きの直線性の改善による色付きの追放と、重低音を正確に再生しダイナミックレンジを拡大する働きだけをするように考え設計されています。

エアコラムのテーパー構造とフローコントロールコア

●エアコラム内を流れる空気の動きは、瞬間的に時速100kmもの速度に達します。そのため通常のコラム形状では、乱気流によってノイズや歪みが発生します。901WBでは、コラム全体を先に行くにしたがって細くなるような形状にしています。さらに、コラムの中央にフローコントロールコアを配置して、乱気流によるノイズの発生を排除しています。

901WB-EQアクティブイコライザー



高音質部品の採用による音質の改善

●内部コンデンサーや、抵抗、その他電子部品に音質の優れた高品質な素子を積極的に採用し、さらに高品位な音に改善されました。

ボーズ独自のアクティブイコライゼーション

●どんなスピーカーもf_0（最低共振周波数）以下は12dB/octの減衰特性を持っていますが、その減衰カーブは極めてスムーズで、振幅および位相特性に優れています。そこで、f_0を最適なものに選びこの減衰特性を正確にイコライジングすることによって色付きのない解像度のよい低域を再生しています。

信号の伝達ロスを防ぐ金メッキ入出力端子を採用

●入力端子は、すべて金メッキ端子を採用し、端子の部分での信号の伝達ロスを最小に抑え、また、経年変化や、腐食による音質の劣化を排除しています。

作業をはじめる前に

※901WB-EQは必ずご使用ください

このアクティブイコライザーは、901WB専用に設計されています。また、901WBスピーカーシステムをご使用になる場合は、アクティブイコライザーをご使用になりませんと、スピーカーシステム本来の性能が得られません。また、どのようなグラフィックイコライザー、パラメトリックイコライザーを使ってもこのアクティブイコラザーの代わりに使用することはできませんので、必ずこの901WB-EQアクティブイコライザーをご使用ください。

●プリメインアンプおよびAVアンプとアクティブイコライザーの接続について
一部のプリメインアンプとAVアンプには、この901WB-EQを接続してご使用になれないものがございます。作業を始める前にお手持ちの機器がイコライザー等の接続が可能なことをご確認ください。
もし、お手持ちの機器についてイコライザー接続の可否がご不明の時は、右記のようにお手持ちのアンプメーカーへお問い合わせください。

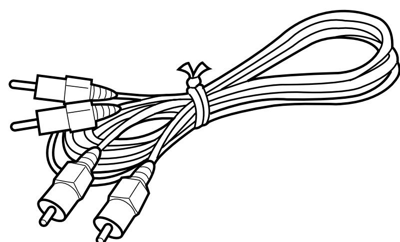
・アンプメーカーへの質問のしかた
「グラフィックイコライザーの接続と使い方を聞きたいのですが。」とご質問ください。その際お客様のお持ちの機種名、型番を確認してからご質問なさることをお薦めします。

・ご質問の際、「ボーズのイコライザーの接続の方法を教えてください。」と質問すると「ボーズの製品についてはわからない。」と解答される場合がありますが、その場合は、「ボーズのイコライザーは、普通のグラフィックイコライザーと全く同じ接続方法で使用できるので、グラフィックイコライザーの接続のしかたを教えてください。」とお聞き直しください。

・901WB-EQアクティブイコライザーは、普通のグラフィックイコライザーと全く同じ接続方法でご使用になれますので、メーカーに問い合わせたグラフィックイコライザーの接続方法および使用方法にしたがって接続してご使用ください。

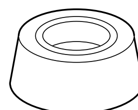
開梱に際してのご注意とお願い

付属品を確認してください



オーディオピンケーブル×2本
（901WB-ＥＱに同梱）

※スピーカーコードは付属しておりません。別途ご用意ください。
※901WBスピーカーシステム専用スタンドは別売りです。



インシュレーター×4個／1本
（901ＷＢスピーカーに同梱）

901WB-EQのゴム足と付属のインシュレーターについて



注意

・ゴム足の素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性あります。事前にご確認のうえご使用ください。
・付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店か取扱店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

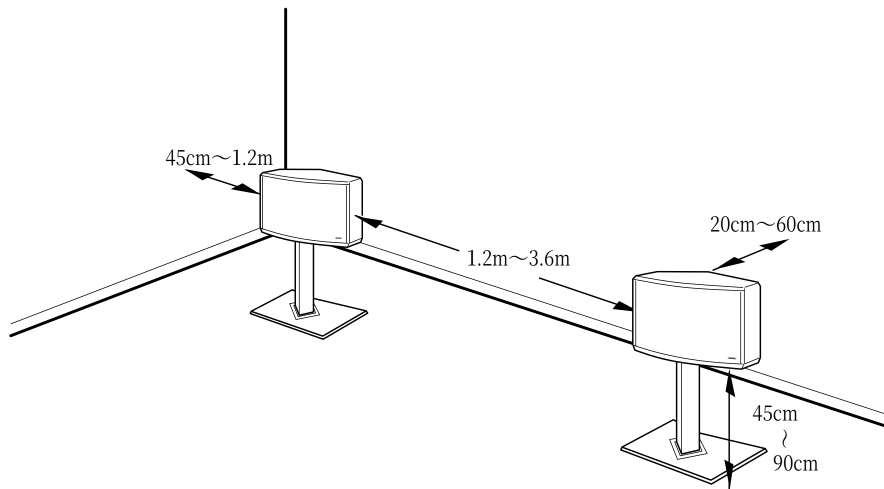
スピーカーの設置について

リスニングルームのスピーカー設置場所を決めます。

●901WBスピーカーシステムは、スピーカー背面および脇の壁面による音の反射を積極的に使用するスピーカーです。ご使用になるリスニングルームの形状や、材質その他の関係ですべての部屋で全く同じセッティングはありえませんが下記の要領を参考にして、お客様のリスニングルームに一番合う設置場所をお探しください。

●リスニングルーム内で設置場所が決まりましたら仮設置をします。最終的には、音を出しながら設置場所を決定します。

※作業をなさるときのご注意
901WBスピーカーシステムは、表面が滑りやすく、重量もありますので、一人で持ち上げて作業をなさると非常に危険です。なるべく二人で作業をなさることをお薦めいたします。



スピーカーの設置場所の目安

①背面の先端からスピーカー背後の壁までの間隔は20cm～60cm位になるようにします。

②スピーカーと脇の壁との間隔は、45cm～1.2m位になるようにします。

③スピーカーの高さは、45cm～90cm位になるように設置してください。
※スピーカーの高さが天井と床の中央にならないようにご注意ください。低音に対して影響がでる場合があります。

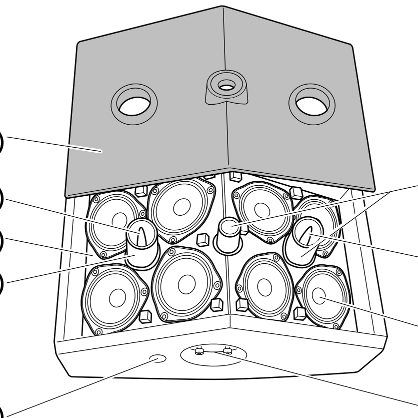
④左右のスピーカーの間隔は、1.2m～3.6m位離します。

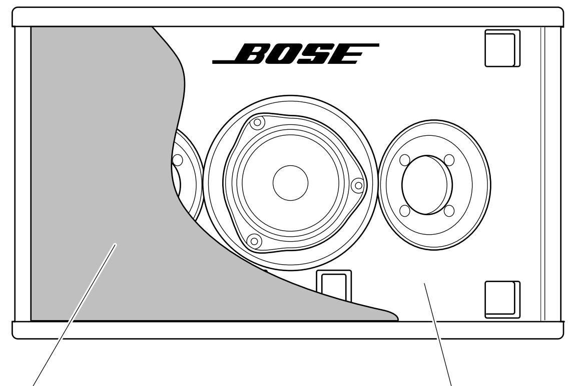
※左記の距離は、あくまでも推奨例です。リスニングルームの状況によって、必ずしも推奨値にならなくても十分満足できる音が再生できる場合もあります。また、逆に、たとえ推奨値内であってもリスニングルーム内の形状、材質等によって十分な性能が発揮できない場合もございます。リスニングルームにあわせて置き方を工夫されて置き方による音の変化をご確認いただき、十分満足の行く設置場所をお探しください。

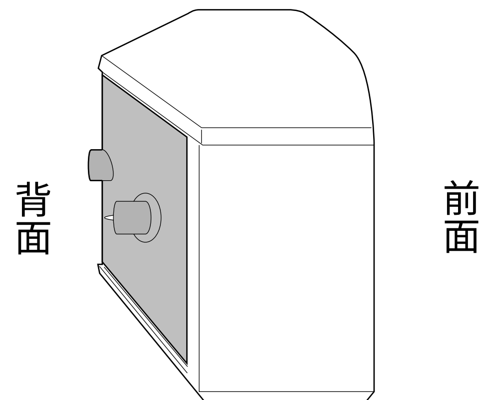


注意 **901WBは壁または天井から吊り下げて使用することはできません。落下してけがや事故の原因になります。**

各部の名称　スピーカーシステム







①リアグリル
スピーカードライバー保護用グリル。この面が背面になります。

②キャビネット
キャビネットは適度な内部損失と硬度の高いMDF（Medium Density Fiber-Board：中密度繊維板）を使用。無駄なキャビネットの鳴きを抑えます。

③11.5cm・アルミエッジワイズ巻フルレンジドライバー
ローレベル時のリニアリティー特性を悪化させることなく高耐入力特性を実現しています。

④リアクティブエアコラム
スピーカーユニット背面の空気圧を最適に調整し、コーン紙のエクスカーションを抑えます。

⑤フローコントロールコア
リアクティブエアコラムの中央に配置したフローコントロールコアで、乱気流によるノイズの発生を抑えています。

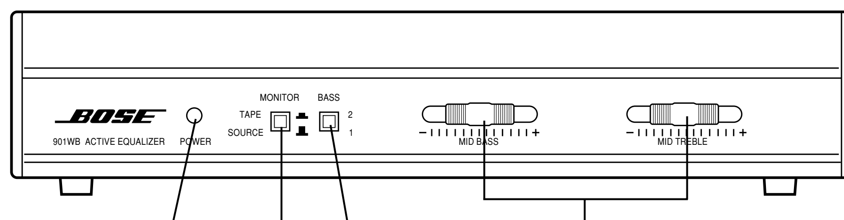
⑥アコースチック・マトリックスエンクロージャー
内部は9つの同一体積を持った部屋に区切られていてさらに、その部屋は平行面が全く存在しないような構造を持った特殊なエンクロージャーです。

⑦入力スピーカーターミナル
金メッキ処理を施したネジ込み式スピーカー接続端子を装備しています。対応ケーブルは、0.75〜5.5mm²です。極性は、赤…⊕、黒…⊖です。

⑧ズレ防止ネジ用埋込ナット
専用スタンド使用時にズレを防止するためのM8ネジ用埋め込みナットを装備しています。

⑨フロントグリル
スピーカードライバー保護用グリル。この面が前面になります。

各部の名称および機能　アクティブイコライザー前面パネル



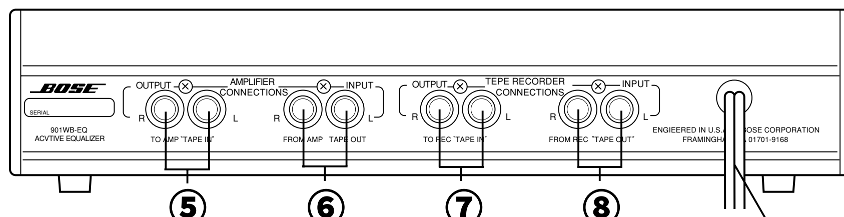
①POWERインジケーター
本機に通電するとインジケーターが点灯します。

②テープモニタースイッチ
このスイッチを押し込むと背面テープ端子に接続されたテープデッキの信号に切り替えられます。

③Bass スイッチ
このスイッチを押し込むと35Hz以下を6dB/octのカーブでカットします。

④RoomAcoustic Compensatorつまみ
リスニングルームの音響特性に合わせてこのつまみで調整します。MID-BASSとMID-TREBLEがあります。

各部の名称および機能　アクティブイコライザー背面パネル



⑤出力端子
ご使用になるアンプの入力端子につなぎます。端子には、経年変化や音質劣化の少ない金メッキ端子を使用しています。

⑥入力端子
アンプからの出力をこの端子につなぎます。端子には、経年変化や音質劣化の少ない金メッキ端子を使用しています。

⑦REC OUT 端子
テープデッキを901WB-EQアクティブイコライザーに接続する場合テープデッキの録音（REC）端子とこの端子を接続します。端子には、経年変化や音質劣化の少ない金メッキ端子を使用しています。

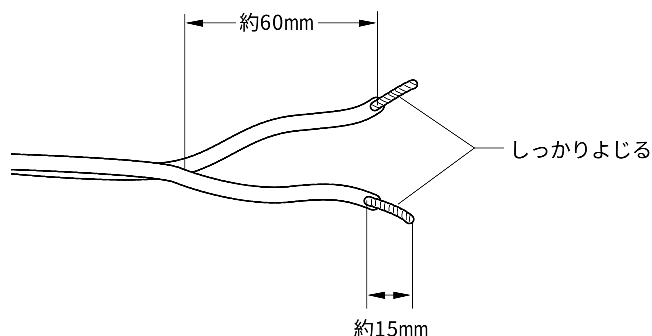
⑧TAPE PLAY端子
テープデッキを901WB-EQアクティブイコライザーに接続する場合テープデッキの再生（PLAY）端子とこの端子を接続します。端子には、経年変化や音質劣化の少ない金メッキ端子を使用しています。

⑨電源
商用電源100V 50/60Hzに接続します。

スピーカーの接続の準備

●アンプとスピーカーを接続するコードの抵抗成分が大きいと、再生される音の色付きや、途中のコードでのパワーロスが生じます。音の色付きや、コードでのパワーロスを防ぐためになるべくスピーカーとアンプを接続するコードは、短く、適切なコードで行うように心掛けてください。

●スピーカーコードは、下図のように先端の被服をむいておきます。



スピーカーターミナルの対応線は0.75～5.5mm^{2}です。

スピーカーとアンプの結線について

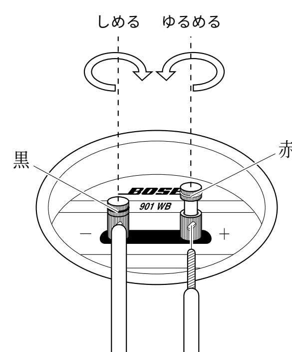
●スピーカーとアンプを接続するときは、必ずアンプの電源を切ってから行なってください。

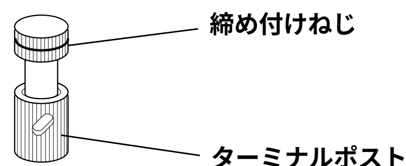
●スピーカーの底面にあるスピーカーターミナルにスピーカーコードを右図のように接続します。

●スピーカーの底面にあるスピーカーターミナルとアンプからのスピーカーコードを右図のように接続してください。その時、スピーカーの ⊕側端子とアンプの ⊕側端子、スピーカーの ⊖側端子とアンプの ⊖側端子が間違いなく接続されているか確認してください。

※スピーカーターミナルにコードを締め付けるときは、締め付けねじの部分だけを締め付けるようにして決してスピーカー側のポストの部分を一緒に締め付けないようにしてください。ポストの部分を強く回すと空回りをしてゆるむ原因になります。

※スピーカーコードの極性（⊕、⊖）を間違えますと、音の定位がフラついたり低音が出なくなったりします。間違えないようにご注意ください。





901WB-EQアクティブイコライザーの設置

オーディオ機器と接続

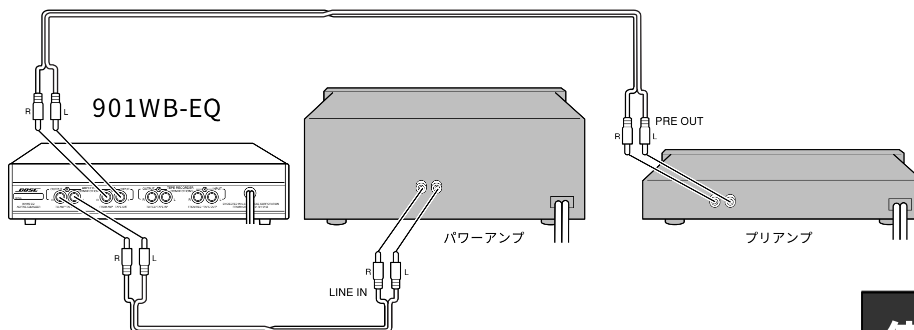
◆お手持ちのシステムが（アンプ）次のうちのどのタイプになるかを確認して、それぞれのタイプの接続方法と使用方法をご覧ください。◆

お手持ちのシステム	９０１ＷＢを再生するために 必要な機能	項　　　目	ページ
セパレートアンプ		A セパレートアンプの場合	12
プリメインアンプ	・プロセッサー入出力（send,return）端子を装備しているタイプ ・シグナルプロセッサー入出力（send,return）端子を装備しているタイプ ・エフェクター入出力（send,return）端子を装備しているタイプ ・アダプター入出力（send,return）端子を装備しているタイプ ・グラフィックイコライザー入出力（send,return）端子を装備しているタイプ ・プリ部分とパワー部分を切り離して使用できるタイプ	B-1 プリメインアンプとの接続 1	12～13
	上記の機能がないものでTAPE　RECセレクターとソース（入力）セレクターが別々になっている場合	B-2 プリメインアンプとの接続 2	14
ＡＶアンプ	フロントとリアが独立したイコライザー接続端子をもっているタイプ	C　AVアンプの場合	15

A セパレートアンプの場合 オーディオ機器との接続

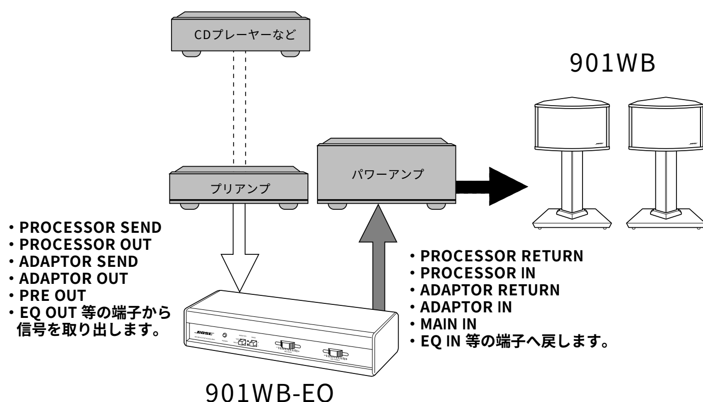
※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

システムコントローラーは、プリアンプとパワーアンプの間に接続します。



使 用 方 法

通常通り使用してください。

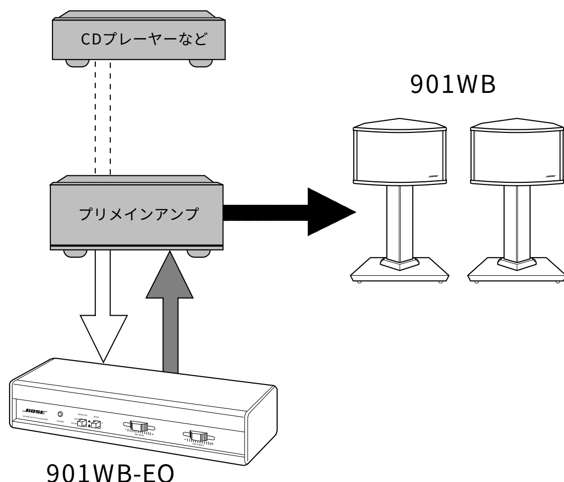


信号の流れ

コントロールアンプの出力端子から出た信号を901WB-EQアクティブイコライザーへ入力し、アクティブイコライザーの出力をパワーアンプに入力します。

B-1 プリメインアンプとの接続 1 オーディオ機器との接続

※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。



信号の流れ

プリメインアンプから一度901WB-EQアクティブイコライザーへ信号を送り、アクティブイコライザーの出力を再びプリメインアンプにもどし、その信号をプリメインアンプのパワーアンプ部分で増幅して901WBスピーカーシステムをならします。

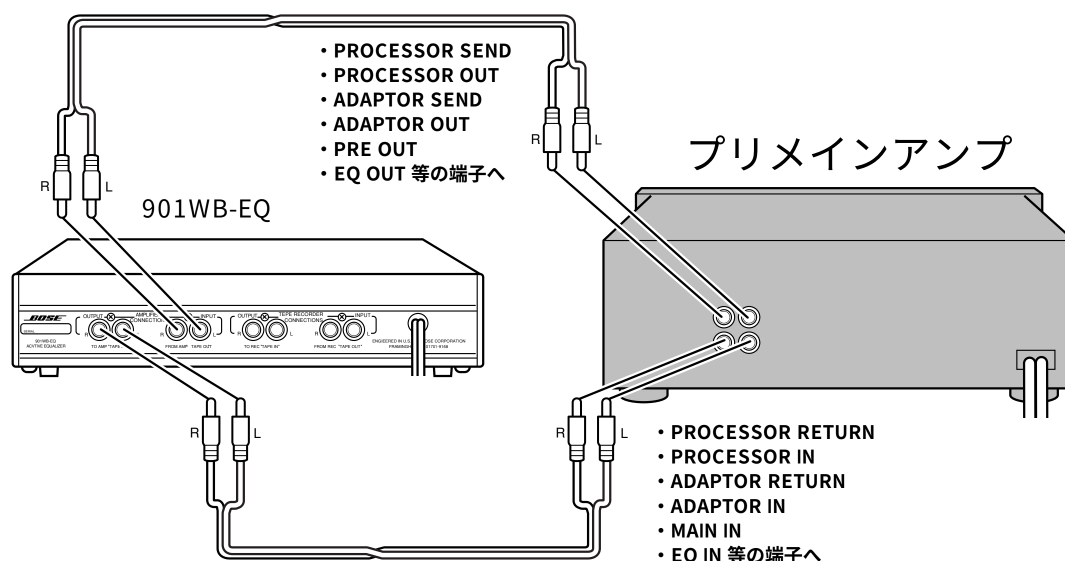
使用方法

接続に間違いがないことを確認してください。
プリメインアンプのフロントパネルにプロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチがある場合は、このスイッチをONにしてプロセッサー(アダプター)が効くようにセットしてからご使用ください。

◆接続について◆

アクティブイコライザーは、プリアンプのイコライザーアウト(センド)端子とイコライザーイン(リターン)端子の間に接続します。

アクティブイコライザーの電源は、プリメインアンプのスイッチに連動するコンセントに接続することをお薦めします。



※901WBスピーカーと他のスピーカーをA、B切り替えスイッチで切り替えてお楽しみになる場合の注意

プリメインアンプで2系統のスピーカーが接続可能な場合(A、B)で、1つの系統に901WB、残りの系統に他のスピーカーを接続して、A、B切り替えスイッチなどで切り替えて901WBスピーカーシステム以外のスピーカーをならす場合は、必ずプリメインアンプのプロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチをOFFにして901WB-EQが901WBスピーカーシステム以外のスピーカーにかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号を901WBスピーカーシステム以外のスピーカーで再生するとスピーカーを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

また、プロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチが無く、一度イコライザーを接続すると外さないかぎりイコライザーをバイパスできない回路のものや、プリメインアンプのプリ部分とパワー部分を切り離して，その間にイコライザーを接続に使用する機器では，基本的にA、B切り替えスイッチなどで切り替えて901WBスピーカーシステムと901WBスピーカーシステム以外のスピーカーをならすことはできませんのでご注意ください。

※ヘッドホンでお楽しみになる場合の注意

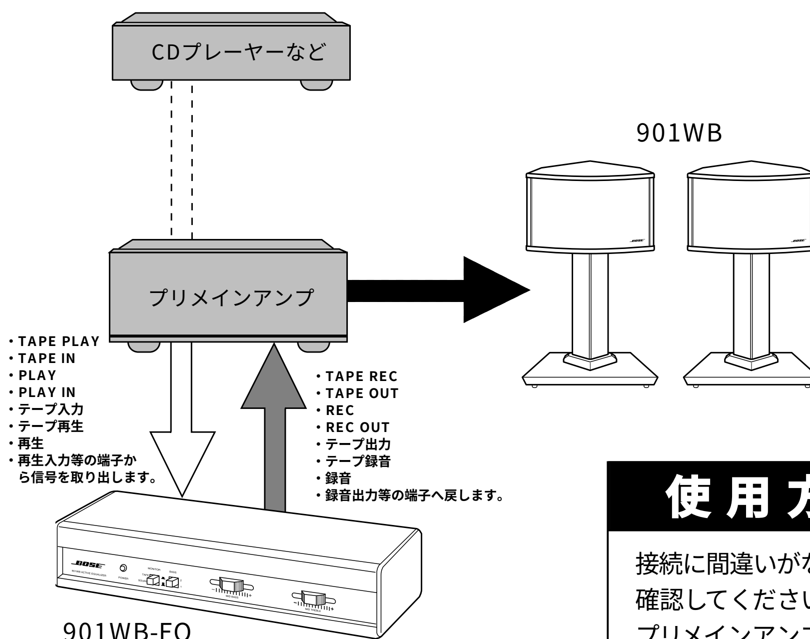
901WBスピーカーシステム以外のスピーカーをならす場合と同様に、必ずプリメインアンプのプロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチをOFFにして901WB-EQがかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号をヘッドホンで再生するとヘッドホンを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

B-2 プリメインアンプとの接続 2 オーディオ機器との接続

※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

信号の流れ

プリメインアンプのTAPE REC OUT端子から一度901WB-EQアクティブイコライザーへ信号を送り、イコライザーの出力を再びTAPE PLAY端子にもどし、その信号をプリメインアンプのパワーアンプ部分で増幅して901WBスピーカーシステムをならします。

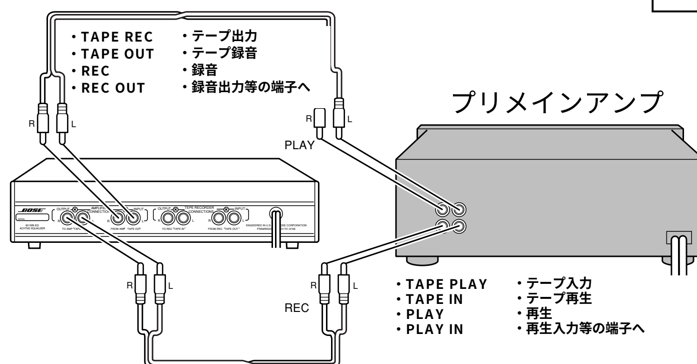


使用方法

接続に間違いがないことを確認してください。
プリメインアンプのフロントパネルの録音セレクターでお聞きになりたい音源を選びます。
次にテープモニタースイッチまたは、テーププレイスイッチで901WB-EQアクティブイコライザーで接続したテープ端子側を選択します。

◆接続について◆

システムコントローラーは、プリアンプのテープ録音出力端子とテーププレイ端子の間に接続します。



※901WBスピーカーと他のスピーカーをA、B切り替えスイッチで切り替えてお楽しみになる場合の注意

プリメインアンプで2系統のスピーカーが接続可能な場合（A、B）で、1つの系統に901WB、残りの系統に他のスピーカーを接続して、A、B切り替えスイッチなどで切り替えて901WBスピーカーシステム以外のスピーカーをならす場合は、必ずプリメインアンプのテープモニタースイッチまたは、テーププレイスイッチをOFFまたは、解除して901WB-EQが901WBスピーカーシステム以外のスピーカーにかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号を901WBスピーカーシステム以外のスピーカーで再生するとスピーカーを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

※ヘッドホンでお楽しみになる場合の注意

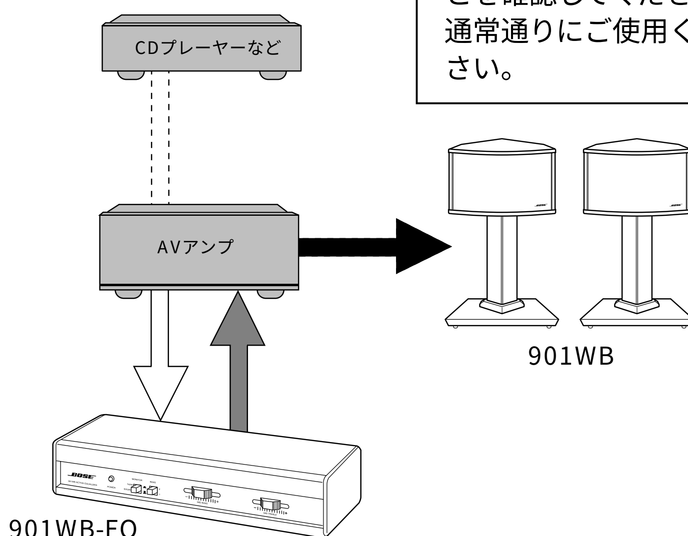
901WBスピーカーシステム以外のスピーカーをならす場合と同様に、必ずイコライザーを接続した側のテープモニタースイッチまたはテーププレイスイッチを切って、901WB-EQがかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号をヘッドホンで再生するとヘッドホンを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

C AVアンプの場合 オーディオ機器との接続

※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

信号の流れ

AVアンプのフロントエフェクトアウトから一度901WB-EQアクティブイコライザーへ信号を送り、アクティブイコライザーの出力を再びフロントエフェクトインにもどし、その信号をAVアンプのパワーアンプ部分で増幅して901WBスピーカーシステムをならします。

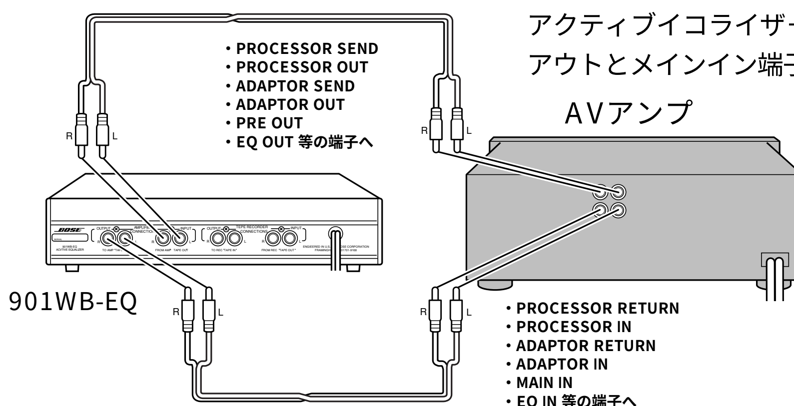


使用方法

接続に間違いがないことを確認してください。通常通りにご使用ください。

◆接続について◆

アクティブイコライザーは、フロント側のプリアウトとメインイン端子の間に接続します。



※901WBスピーカーシステムをご使用になれないAVアンプについて

フロント（メイン）側とリア（サラウンド）側が独立して、（サウンド）プロセッサー、アダプターもしくは、グラフィックイコライザーを接続できない機種は、901WB-EQを接続して901WBスピーカーシステムをならすことはできません。また、（サウンド）プロセッサー、アダプターもしくは、グラフィックイコライザーが接続できる機種でもフロント側とリア側が独立していない場合は、フロントのメインスピーカーにイコライザーがかかるだけではなくリア側にもイコライザーがかかってしまうためサラウンドスピーカーに損傷を与える原因になります。このような機種には、901WBシステムはご使用になれません。

※ヘッドホンでお楽しみになる場合の注意

901WBスピーカーシステム以外のスピーカーをならす場合と同様に、必ずプロセッサー（アダプター）ON/OFFスイッチをOFFにして901WB-EQがかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号をヘッドホンで再生するとヘッドホンを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

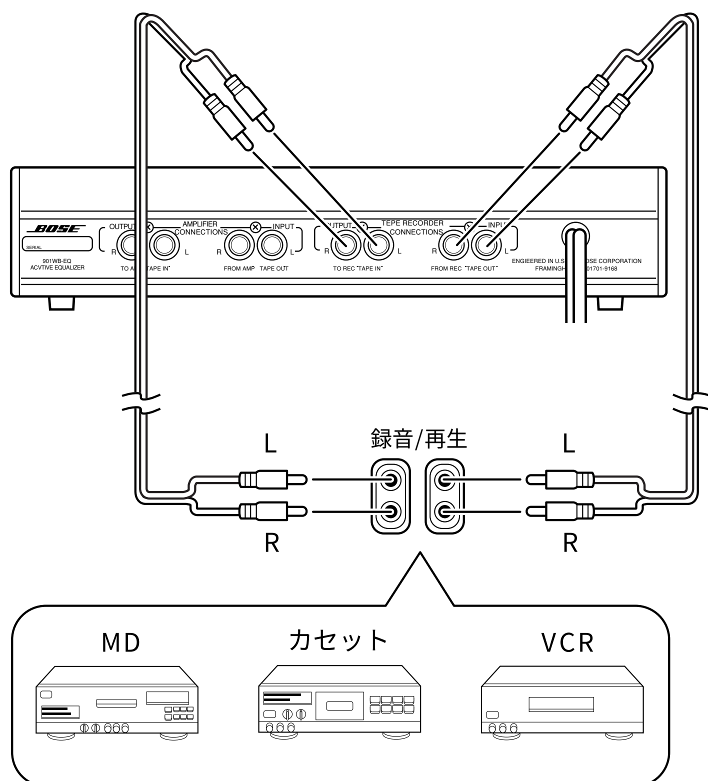
テープデッキとの接続の方法

●プリメインアンプのテープ端子を使用して イコライザーを接続している場合

ご使用になっているプリメインアンプのテープ端子をイコライザー接続のために使用して、テープ接続端子がその分不足してしまった場合は、901WB-EQアクティブイコライザーのテープ接続端子を使用して901WB-EQで使用している分のテープデッキ接続端子の代わりに使用することができます。

●プリメインアンプでイコライザー端子を使用して イコライザーを接続している場合

ご使用になっているアンプのテープ端子に通常通りテープデッキを接続してご使用ください（接続や使い方は、お手持ちのアンプの取扱説明書をご覧ください）。



使用方法

●アクティブイコライザーに接続したテープデッキを再生する場合アクティブイコライザーのフロントパネルにあるMONITORスイッチを押し込みます。

※アクティブイコライザーに接続したテープデッキの音声は、901WBスピーカーシステム以外のスピーカーや、ヘッドホンで再生することはできません（常に再生音声信号にアクティブイコライザーがかかってしまうため）。

接続の確認

◆正しく接続されているかどうかをチェックします。下記の手順にしたがって確認してください。◆

A セパレートアンプの場合

① すべての機器の電源が切れていることを確認します。

② 接続に間違いがないか12ページを参照して確認してください。

③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901WB-EQアクティブイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、アクティブイコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。

④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。

⑤ アンプのBALANCE（バランス）コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。

⑥ 901WB-EQフロントパネルのテープモニタースイッチを押し込んでテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチを押してSOURCE に切り替えて音が出ればアクティブイコライザーが正常に接続されています。

⑦ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシ

B-1 プリメインアンプ1（専用端子を使用）の場合

① すべての機器の電源が切れていることを確認します。

② 接続に間違いがないか12～13ページを参照して確認してください。

③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901WB-EQアクティブイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、アクティブイコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。

④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。

⑤ アンプのBALANCE（バランス）コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。

⑥ プリメインアンプのプロセッサー（アダプター、エフェクター、イコライザー等）ON/OFF スイッチをアクティブイコライザーが効くように設定します。

⑦ 901WB-EQフロントパネルのテープモニタースイッチを押し込んでテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチを押してSOURCE に切り替えて音が出ればアクティブイコライザーが正常に接続されています。

⑧ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシステムを操作してお楽しみください。

B-2 プリメインアンプ2（テープ端子を使用）の場合

① すべての機器の電源が切れていることを確認します。

② 接続に間違いがないか14ページを参照して確認してください。

③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901WB-EQアクティブイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、アクティブイコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。

④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。

⑤ プリメインアンプのテープモニタースイッチをアクティブイコライザーが接続してあるテープ端子側に合わせます。

⑥ アンプのBALANCE（バランス）コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。

⑦ 901WB-EQフロントパネルのテープモニタースイッチを押し込んでテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチを押してSOURCE に切り替えて音が出ればアクティブイコライザーが正常に接続されています。

⑧ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシ

C AVアンプの場合

① すべての機器の電源が切れていることを確認します。

② 接続に間違いがないか15ページを参照して確認してください。

③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901WB-EQアクティブイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、アクティブイコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。

④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。

⑤ アンプのBALANCE（バランス）コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。

⑥ 901WB-EQフロントパネルのテープモニタースイッチを押し込んでテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチを押してSOURCE に切り替えて音が出ればアクティブイコライザーが正常に接続されています。

⑦ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシステムを操作してお楽しみください。

調　整

リスニングルームの音響特性について

どのようなスピーカーシステムでも、そのスピーカーを置く場所に加え、部屋の容積、形状、構造、配置してある家具調度類などを総合した音響特性がステレオシステムから再生される音質に大きく関係してきます。例えば、スピーカー背後の壁の材質が極端に薄い材質だったり、ドアや、窓など開口部が大きく取られていたりする場合は、低音が反射されずに透過してしまい低域のレスポンスが低下する場合があります。

また、固い床で、なにも敷物がなかったり、もしくは、部分的で、家具なども少なく壁面も音の反射が起きやすい材質の物の場合、残響、反射が多すぎて（ライブな部屋)、悪影響を及ぼす場合があります。ライブな部屋の場合は、壁に厚手のカーテンをかけたり、床に厚手のジュータンなどを敷くことで、この部屋の欠点を補正することができます。

逆に、吸音性の高い壁や、肉厚の家具が多く配されていたりして、部屋が吸音し過ぎる（デッドな部屋）場合は、吸音性の高い家具などを取り除くなどして部屋全体をアレンジしなおすと改善されます。

上記内容は、部屋の音響に与える要素のほんの一部に過ぎません。音が影響を受ける要素は、ほとんど無限に存在し、どんな部屋も音響的に完全なものは、作りえないということはご理解ください。

901WB-EQアクティブイコライザーのRoomAcoastic Compensator機能を使ってリスニングルームの音響補正の方法

●MID-BASSコントロール

中低域の量感を補正します。中低域は、部屋の定在波の影響が顕著に現われます。調整方法は、具体的に、低域成分が多すぎると感じた場合は、MID-BASSコントロールつまみを向かって左の方向へ、少しずつ移動させます。逆に中低域の音が痩せているように感じる場合は、右の方向へやはり少しづつ移動させて調整します。

●MID-TREBLEコントロール

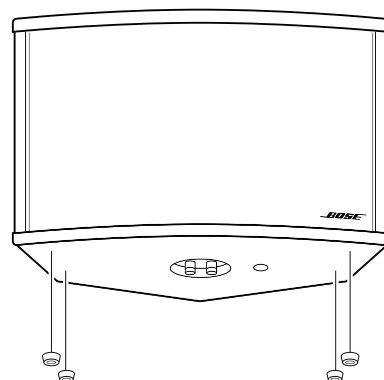
中高域は、リスニングルームの反射特性や、吸音特性に影響されます。このボリュームを使って中高域の量感を補正します。左の方向へ移動させると中高域成分が減少し、右の方向へ移動させると中高域成分が増加します。

●BASSスイッチ

中低域に影響を与えず35Hz以下を6dB/octのカーブでカットするスイッチです。低域の残響、反射が多すぎるリスニングルームの場合、このスイッチを押し込んでレベルを下げます。

付属品の使い方

スピーカーの底面に付属のインシュレーターを右図のように4ヶ所に、貼り付けてください。



※専用スタンドをご使用になる時は使用しません。

故障かな？と思ったら

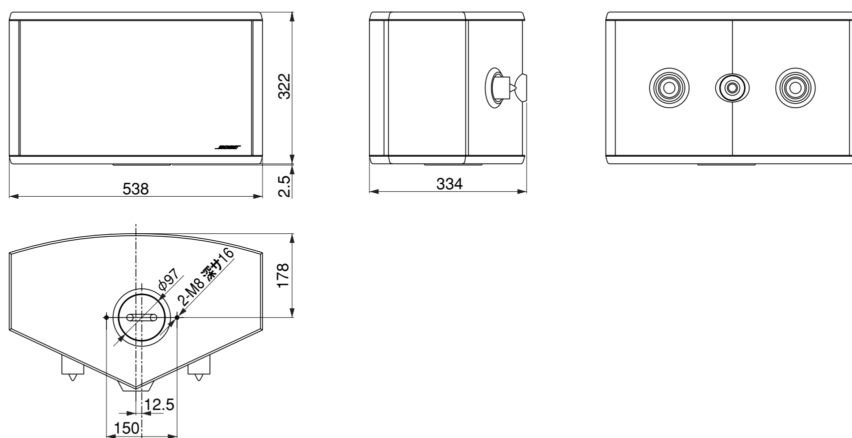
症　状	原　因	処　置
・スピーカーから音がでない。	・スピーカーコードが外れているか、接触不良および断線。	・スピーカーコードを交換します。
	・スピーカーが故障している。	・お買上になった販売店にご相談ください。
	・アンプの電源が入っていない。	・アンプの電源を入れてください。
	・アンプの音量が最小になっている。	・音量の調整をしてください。
	・アンプが故障している。	・アンプを交換します。
・スピーカーの音に迫力がない。	・アクティブイコライザーの電源が入っていない。	・アクティブイコライザーの電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	・機器の接続を間違えている。	・この説明書をもう１度見ながら正しく接続し直してください。
	・アンプの出力端子とアクティブイコライザーの入力端子を接続しているオーディオピンケーブルが繋がれていないか接触不良および断線。	・オーディオピンケーブルを交換します。
	・アクティブイコライザーの出力端子とアンプの入力端子を接続しているオーディオピンケーブルが繋がれていないか接触不良および断線。	・オーディオピンケーブルを交換します。
	・アクティブイコライザーが故障している。	・イコライザーを外して再生してみて音が再生されればイコライザーの故障が考えられます。お買上になった販売店にご相談ください。
	・音源とアンプの接続に問題がある。	・アンプの説明書をもう１度見ながら正しく接続し直してください。
	・アクティブイコライザーに信号がかかっていない。	・アンプとこの説明書をもう１度見ながら正しく接続しイコライザーがかかるようにセットし直してください。
	・スピーカーコードの極性を間違えている。	・正しくつなぎ直してください。

故障の場合のお問い合せ先

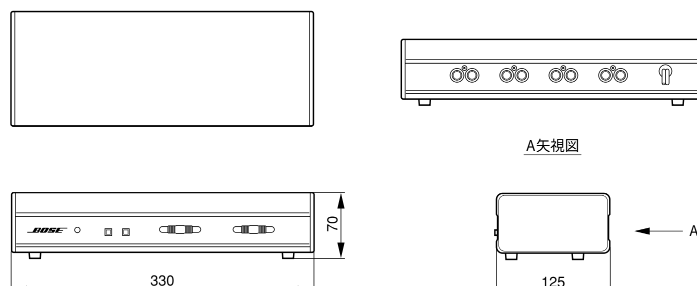
故障及び修理のお問い合わせは、ボーズ・サービスセンター株式会社　0120-235-250
　住所　〒206-0035　東京都多摩市唐木田1-53-9　唐木田センタービル
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社インフォメーションセンター　☎ 03-5489-0955
までご連絡ください。

寸法図

901WB



901WB-EQ



（単位：mm）

仕　様

901WBスピーカーシステム

ユニット	11.5cmコーン型フルレンジユニット×9
音響エネルギー配分	反射成分 89%　直接成分 11%
許容入力	270W(rms) 700W(peak)
インピーダンス	8Ω
周波数特性	30Hz〜18kHz
サイズ	538(W)×324.5(H)×334(D)mm
重量	17.2kg（1本）
接続端子	金メッキスクリューターミナルタイプ　対応線断面積：0.75〜5.5mm²
付属品	インシュレーター×4個/1本

901WBEQイコライザー

入力インピーダンス	47kΩ
出力インピーダンス	1kΩ
ダイナミックレンジ	106dB @35Hz
歪率	0.09% 以下 （THD @1kHz / 1V入力）
ルームアコースティックコンペンセーターコントロール	Mid-Bass　±6dB @225Hz Mid-Treble　±6dB @3kHz
Bassスイッチ	-6dB / oct @35Hz
定格消費電力	3W
外形寸法	330(W)×70(H)×125(D)mm
質量	1.5kg
付属品	オーディオピンケーブル×2本

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

BOSE®
Better sound through research®
http://www.bose.co.jp/
ボーズ株式会社
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1038
08･01-0.1K-D･1(I-M)